

2013年1月4日

各位

JXホールディングス株式会社

2013年 会長・社長 年頭挨拶について

本日、当社会長 木村 康および社長 松下 功夫からグループ社員に対して実施した年頭挨拶の要旨につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

<会長（木村 康）年頭挨拶>

1. 今年の展望・課題

昨年は、「世界の選挙イヤー」となり、わが国では第2次安倍内閣が発足し、「政治の安定」への期待とともに新しい時代の到来を感じている。

当社グループにとっても、今年は、新時代への対応として事業活動を変革する転換の年、すなわち、「ターニング・ポイント」となる年になる。

今年は、まずもって、第1次中期経営計画の最終年度として、グループの目標を達成しなければならない。そして、現在策定中の第2次中期経営計画を飛躍に向けた礎として仕上げ、実行初年度としてスタートダッシュする。

2. 経営理念・行動指針の浸透

水島製油所における保安検査不備に関しては、このような事件は二度と起こしてならないことであり、当社グループとしては、全社員が、企業活動において曇りのない「公正さ」が強く求められていることを再認識し、経営理念の実践と行動指針に基づく行動を徹底していく。特に、行動指針に掲げる「Ethics」とは何かを考え、それを実践してもらいたい。

3. グループ社員への期待

時代の変化、環境変化の中にあっては、過去の成功体験・発想は通用しない。新しい技術、発想、考え方をもって、事業戦略の再構築、業務の革新・改善を図っていかなければならない。

自分の仕事を見つめ直し、自分の頭で「どうあるべきなのか。」を考え、強い「当事者意識」をもって導いた答えに向かって果敢に行動を起こしてほしい。グループ社員一人ひとりの「当事者意識」とその行動の積み重ねがグループを変貌させ、「創造と革新」を実現する。

<社長（松下 功夫）年頭挨拶>

1. 昨年を振り返って

昨年は厳しい事業環境の下、当社グループの各事業において、これからの飛躍に向けた諸施策を展開し、事業基盤の強化や戦略的な施策の実行など、着実な進展があった。

一方、水島製油所の保安検査不備に関しては、グループ社員全員がこの教訓を肝に銘じ「コンプライアンスが事業活動の大前提であること」を再認識し、個々人の行動において徹底していく。

2. 本年の重点課題と取り組み

迎えた本年における課題は3つ。

まず、目下の最大の課題は第1次中期経営計画（中計）の完達であり、各種施策の着実な実行、前倒し、柔軟な対応策の実施などを進め、目標完達に向けてラストスパートをすることである。

2つ目の課題は、1次中計で「基礎固め」として取り組んだ諸施策の果実を梃子に、当社グループがさらなる飛躍を遂げるための第2次中計の策定と、その初年度にあたる本年4月からスピード感をもってこれを実行していくことである。この第2次中計は、各中核事業会社の構造改革等の継続による圧倒的な競争力・収益力の実現、シナジー・コスト削減の継続、高収益部門・高成長部門への経営資源の優先配分、ベストプラクティスの4点を基本方針として、グループ企業価値の最大化に向けて、先行き不透明な事業環境の変化に、迅速かつ的確に対応しうるものとしていく。

そして、3つ目の課題は「JX」の認知度をさらに上げていくための様々な施策の実施に取り組んでいくことである。

3. グループ社員への期待

本年をJXグループ飛躍のためのスタートの年とすべく、次の2点の心構えを持ち、明るく元気にJXグループのX（みらい）を切り拓いていこう。

- (1) 変革する企業グループの一員として、一人ひとりが自分の持ち場で果敢に「チャレンジ」すること。
- (2) 個々の力をグループ全体の力に結集するために「コミュニケーション」をしっかりとること。

以 上